

**PATENT ABSTRACTS OF JAPAN**

(11)Publication number : 11-244103

(43)Date of publication of application : 14.09.1999

(51)Int.Cl.

A47C 31/02

(21)Application number : 10-046479

(71)Applicant : OKAMURA CORP

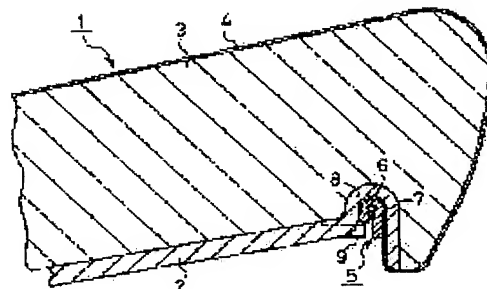
(22)Date of filing : 27.02.1998

(72)Inventor : KOBAYASHI TAKESHI

**(54) SURFACE SKIN EXTENDING DEVICE IN CHAIR OR THE LIKE****(57)Abstract:**

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To make even an unskilled person easily and quickly extendable a surface skin on a seat plate or the like and easily classifiable waste by different material quality at the time of the disposal by providing a groove to which an extending material where the both pieces are elastically laminated in the rear surface peripheral part of a substrate and projectingly providing lock pieces in the required places of its opening part end edge.

**SOLUTION:** A recessed groove 6 is formed over the whole length of the bending part inner surface of an extending material 5 which is made of an elastic synthetic resin and has an unequal piece angle shape. Lots of projections 7 for locking are provided at the required places on the outer surface. The wide width piece and the narrow width piece of the extending material 5 can be folded and elastically laminated by the action of the groove 6. A fitting groove 8 to which the extending material where the lower face is opened over the whole periphery and the both pieces are laminated, can be fitted and provided with a little room is formed at the periphery end of a substrate 2 and plural lock pieces 9 whose the tips face to the outside and enter onto the opening surface of the fitting groove a little are projectingly provided in the required peripheral places of the substrate 2.

**LEGAL STATUS**

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-244103

(43) 公開日 平成11年(1999) 9月14日

(51) Int.Cl.<sup>8</sup>  
A 4 7 C 31/02

識別記号

F I  
A 4 7 C 31/02

C  
E

審査請求 未請求 請求項の数1 OL (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平10-46479  
(22) 出願日 平成10年(1998) 2月27日

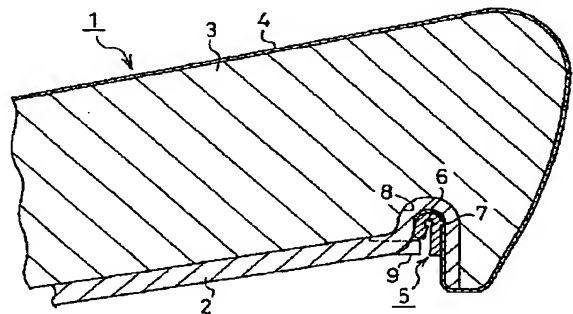
(71) 出願人 000000561  
株式会社岡村製作所  
神奈川県横浜市西区北幸2丁目7番18号  
(72) 発明者 小林 剛  
神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号  
株式会社岡村製作所内  
(74) 代理人 弁理士 竹沢 荘一 (外1名)

(54) 【発明の名称】 椅子等における表皮張設装置

(57) 【要約】

【課題】 椅子の座板等に表皮を、容易かつ迅速に張設しうるとともに又不用になった椅子を廃棄する時、廃材を材質別に容易に分別しうるようにする。

【解決手段】 弾性ある合成樹脂製の不等辺アングル状の張設材5に、所定サイズの表皮4の周縁を止着し、基板2の裏面周縁部に設けた嵌合溝8に、表皮4とともに張設材5を、その両片を弾性重合させて嵌合し、狭幅片の端縁を、基板2に突設した係止片9に係合させる。



## 【特許請求の範囲】

【請求項 1】 椅子の座板等の表面へ表皮を張設する装置であって、弾性を有する合成樹脂製の、不等片アングル状の張設材に、所定サイズの表皮の周縁を止着し、基板の裏面周縁部に、両片を弾性的に重合させた前記張設材が嵌入しうる嵌合溝を設けて、嵌合溝の開口部端縁要所に、開口面中央に向かう係止片を突設し、嵌合溝に、表皮を止着した前記張設材を、両片を弾性重合させつつ押し入れて、係止片に係合させる椅子等における表皮張設装置。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、たとえば椅子の座板や背もたれの基板の表面に重設したクッション材を覆う表皮を、基板に簡単かつ強固に張設する装置に関する。

## 【0002】

【従来の技術】 椅子の座板の表面に表皮を張設する従来の手段は、基板の裏面周縁に、表皮の周縁を鉗止めしていた。また新しい手段も各種提供されている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】 しかし、従来の慣用手段は、熟練を要して、未熟練者の製品は仕上りが悪く、熟練者でも手間がかかって生産性が悪く、また不用になった椅子を廃棄する時、分解すると、多数の鋸が基板に残留して、分解した廃材を材質別に分別することが困難であった。

【0004】 本発明は、たとえば、椅子の製造時には、非熟練者でも、座板等に表皮を容易かつ迅速に張設することができ、廃棄時には、分解した廃材を材質別に容易に分別しうるようにした椅子等における表皮張設装置を提供することを目的としている。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】 本発明は、椅子の座板等の表面へ表皮を張設する装置であって、弾性を有する合成樹脂製の、不等片アングル状の張設材に、所定サイズの表皮の周縁を止着し、基板の裏面周縁部に、両片を弾性的に重合させた前記張設材が嵌入しうる嵌合溝を設けて、嵌合溝の開口部端縁要所に、開口面中央に向かう係止片を突設し、嵌合溝に、表皮を止着した前記張設材を、両片を弾性重合させつつ押し入れて、係止片に係合させることにより、上記課題を解決している。

## 【0006】

【発明の実施の形態】 次に、本発明の実施形態を、添付図面を参照しながら説明する。

【0007】 図 1 は、本発明の一実施形態を示すもので、椅子の座板(1)は、下端の基板(2)上に敷設したクッション材(3)の露出面を、後述するように、表皮(4)で覆って形成されている。

【0008】 図 2 は、本発明の装置に使用する表皮張設

材(5)を示すもので、弾性ある合成樹脂製の不等片アングル状の張設材(5)の屈曲部内面には、全長にわたって凹入溝(6)が形成され、同じく外面要所には、多数の係止用の突起(7)が設けられている。張設材(5)の広幅片(5a)と狭幅片(5b)とは、凹入溝(6)の作用により、折り曲げて弾性重合させることができる。

【0009】 図 1 に示すように、基板(2)の周縁部には、全周に亘って下面開口して、両片(5a)(5b)を重合させた張設材(5)が、若干の余裕を設けて嵌入しうる嵌合溝(8)が形成され、基板(2)の周縁要所には、外側方を向いて、先端が嵌合溝(8)の開口面に若干突入する複数の係止片(9)が突設されている。

【0010】 上述の装置において、張設材(5)の広幅片(5a)の外側面に、所定寸法に裁断した表皮(4)の端縁を接着剤で接着し、張設材(5)を、その両片(5a)(5b)を弾性重合させつつ広幅片(5a)を外側にして、嵌合溝(8)に下方より押し入れれば、係合片(9)が狭幅片(5b)の下端縁に係合し、張設材(5)の両片(5a)(5b)が弾性により、嵌合溝(8)の内側両面に、表皮(4)を挟んで圧接し、同時に突起(7)が表皮(4)の各所に突入するので、張設材(5)は、座板(1)に強固に固定されるとともに、表皮(4)は、弛みなく張設される。

【0011】 基板(2)に取り付けられた張設材(5)と表皮(4)は、必要に応じ、係止片(9)の先端を、狭幅片(5b)より外すことにより、基板(2)より取り外すことができる。

【0012】 上述の実施例においては、表皮(4)の周縁を張設材(5)に、接着剤で接着したが、糸で縫い付けてもよく、また突起(7)は、張設材(5)と嵌合溝(8)の対向面の状況により、省略してもよい。

【0013】 また、本発明を適用しうる物品は、椅子の座板(1)とは限らず、背もたれや肘掛あるいはベッド等にも効果的に適用することができる。

【0014】 このように、本実施形態によれば、複雑な形状を有する椅子等の表皮(4)を容易、かつ迅速に張設することができ、又、仕上りの状態も向上する。また、廃棄時の分別が容易となり、環境問題上も対応した椅子の製作が可能となる。

【0015】 尚、図 3 に示すように、表皮(4)を張設材(5)に縫い付けるようにしてもよい。これによれば、張設材(5)が外から見えることがないので、美観が向上する利点がある。

## 【0016】

【発明の効果】 本発明の装置は、上述のように、表皮の張設作業が甚だ容易で手間がかからず、工程数の削減が可能となる。加えて、製作した椅子等の家具に不良品が生じないので、生産性が向上する。

【0017】 また、不用になった椅子等を廃棄する際、廃材を材質別に容易に分別することができる。

## 【図面の簡単な説明】

3

4

【図1】本発明を適用した椅子の座板の要部の縦断面図である。

【図2】本発明装置に使用される表皮張設材の斜視図である。

【図3】本発明を適用した他の実施形態の座板の要部の縦断面図である。

【符号の説明】

(1)座板

(2)基板

(3)クッション材

(4)表皮

(5)張設材

(5a)広幅片

(5b)狭幅片

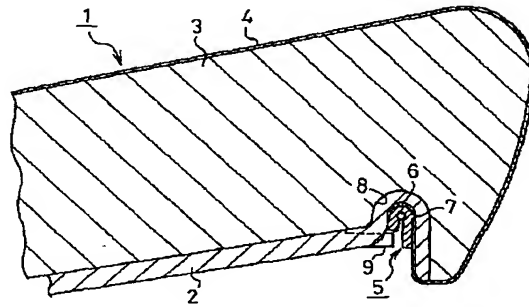
(6)凹入溝

(7)突起

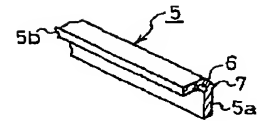
(8)嵌合溝

(9)係止片

【図1】



【図2】



【図3】

